

# 特集 フクシカケルミハラ

～市内の作業所・福祉施設などが一体となって取り組む障害者週間啓発イベント～

12月3日～9日の障害者週間に合わせ、市内各地でイベントを開催します。「アート展」「ショップ」「カフェ」のテーマで行われるイベントの概要とイベントに関わる人たちを紹介します。

☎0848・67・6060 ☎0848・64・2130  
☎0848・36・6525

## フクシ× ミハラ アート展

# 01

入場料無料

絵画から陶芸まで幅広いジャンルのアートを楽しむことができる合同作品展です。三原特別支援学校の児童・生徒の作品や、県主催のあいサポートアート展の作品、市内の福祉施設や個人などからの一般公募作品など、約200点を展示します。メイン会場のリージョンプラザを中心に、JR三原駅までのさまざまな施設や店舗に作品が飾られます。一部の作品は専用ホームページで鑑賞することもできます。



▲ 榎原悠斗作 / 『猫はじっと見つめて』

時 3日(木)～13日(日)

所 右の地図のとおり

メイン会場

①リージョンプラザ(10時～17時)

その他の会場

②市役所本庁1階

③喫茶 赤とんぼ

④喫茶室&DELIかねしょう

⑤CAFE もみの木

⑥ナンバ洋服店

⑦みはらまちづくり 兎っ兎

※②～⑦の会場での実施日・時間など詳しくは専用HPを参照。



▲専用HPの2次元コード



三原特別支援学校高等部3年生

## 榎原悠斗さん



絵を描き始めたのは高等部に入ってからという榎原さんは1年生の頃から「コンクールで入賞する」という目標を胸に作品づくりに取り組んできました。榎原さんの絵のテーマは「猫」。毛の一本一本を丁寧に描き上げていくのが特徴です。「その日の天候や気温によって描くことのできる線が違うため調整に苦労する」と榎原さん。3年間指導してきた美術の部家光成先生は「彼の器用さ・細かさ・根性が絵に表れていますね」と話します。表現力の高さが評価され、作品『猫はじっと見つめて』(ページ右上)は見事全国コンクール「キラキラとアートコンクール」で入賞を果たしました。「少しでも多くの人に見に来てもらいたい」と笑顔を見せます。

# 02

「フクシ×ミハラショップ」では市内の作業所・福祉施設などを利用して  
している人たちが作ったハンドメイドの商品や食品などを販売します。

## フクシ× ミハラ ショップ

### 時・所

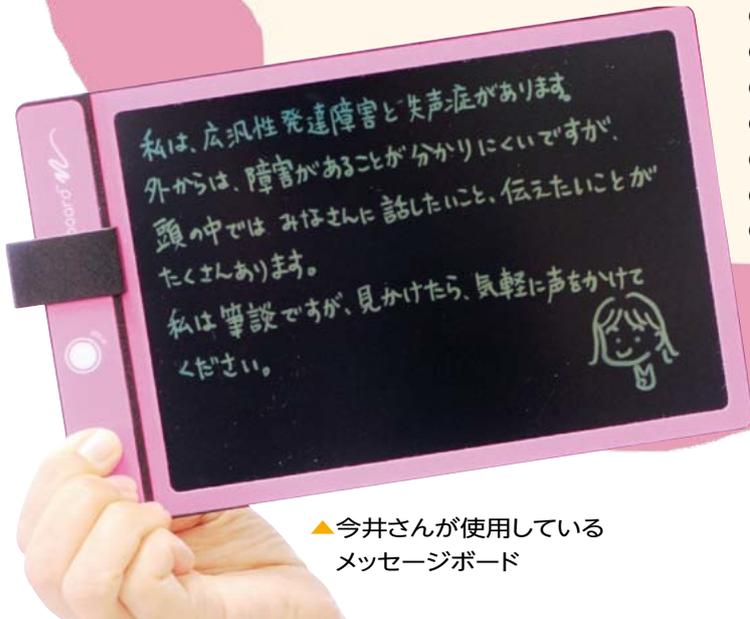
- ①3日(木)・三原駅前スペース サテラス(キオラスクエア内)
  - ②5日(土)・6日(日)・芸術文化センター ポポロ
  - ③12日(土)・13日(日)・八天堂ビレッジ・空の駅オーチャード
- ※いずれも10時～16時。

### 出展者一覧

- あゆみ作業所 ●北方の里 ●とよの郷
- スワンベーカーリー三原店 ●ドリームキャッチャー
- はげみ会作業所 ●ぴーす ●ピッコロ
- 本町ごはん はらのすけ ●みのり作業所
- 三原特別支援学校 ●三原きぼう作業所
- 恵の森～商品開発部～ ●もりの輝舎
- やっさ工房・やっさ工房にしまち
- ワークハウスさくら草 ●わいわい工房
- わくわく工房



▲三原特別支援学校の生徒が製作した商品も販売されます



▲今井さんが使用しているメッセージボード

### INTERVIEW

恵の森～商品開発部～

## 今井 恵さん

(わいわい工房利用者)



▲色とりどりの糸で美しい模様を作り出す糸掛け曼荼羅のコスモサークル



◀書面でインタビューしました

### これまで作った作品は100点以上。 作品を見て「ワクワク」・楽しい気持ちになっ てもらえれば

「障害があっても楽しみながら物づくりをしている人は、たくさんいると思います。しかし、その存在を知ってもらえる機会は少ないです。イベントを通して、障害があっても好きなことをして自由に楽しく生活している人が、たくさんいるんだということをもっと多くの人に知ってもらいたいです。また、私たちに興味を持ってもらいたいです。今回はアクセサリーやポストカード、その他の雑貨など、これまでに作った作品を全て会場に持って行きたいと思っています。作品を見て『ワクワク』・楽しい気持ちになってもらえるとうれしいです。また、イベントが多く障害のある人たちの就労に結び付ききっかけになることを願っています」

### 障害を「個性」としてみたい

「『障害者』というと、どうしても身構えてしまう人がいたり、偏見を持ったりする人もいます。しかし、障害があるからこそできることがありますし、その人にしかできない素晴らしい才能を持っている人がたくさんいます。一人ひとりの性格や顔つきが違いうように、障害のことも『個性』としてみてください。『こんなすごい個性の人もあるんだな』と楽しい気持ちで障害のある人たちと関わってもらえるととてもうれしいです」

# 03

## フクシ× ミハラ カフェ

「フクシ×ミハラカフェ」では、聴覚障害がある人もない人も関係なく交流できる体験型カフェがオープンします。2日間限定です。

手話で注文してみましょう！  
「コーヒー2つください」



### 手話で注文してみよう！ 「ハンドサイン(手話)カフェ」

三原ろうあ協会の会員や手話サークルの会員が店員をするカフェ。店内に流れる手話の動画を見ながら、「コーヒー」や「ケーキ」などの簡単な手話を覚えて、注文してみてください。カフェの他にも視覚障害のある人たちが普段どのように飲んだり、食べたりしているのかをアイマスクで体験できるコーナー(写真下)や視覚障害のある人への読み聞かせなどもあります。

- 時・所** ① 3日(木) 11時～15時・三原駅前スペース サテラス (キオラスクエア内)  
 ② 6日(日) 11時～15時・芸術文化センター ポポロ ホワイエ



▲一語一語を手話で表した看板。スタッフの手作りです

▲点字をあしらったクッキーも楽しめます



手話通訳者と一緒に  
インタビューしました

### INTERVIEW

三原ろうあ協会

会長 **桶本恵美さん**

#### 手話は「見る言葉」

「私は3歳の時に高熱で耳が聞こえなくなったため、手や顔、体の動き(表情)で表現する『手話』でコミュニケーションを取っています。現在はコロナ禍でほとんどの人がマスクを着けて生活をしているため、口の動きを読み取ることができません。手話は見る言葉(言語)です。手話を第一言語とする私にとって、手話は本当に大切です」



#### お客さんが手話をしてくれる姿を見るのが楽しみ

「カフェでは、『コーヒー』や『ケーキ』などの簡単な手話をしてもらおうと考えています。普段の生活ではあまり触れることのない『手話』を知ってもらう機会にしたいです。手話をするのを恥ずかしいと思う人もいるかもしれませんが、恥ずかしがらずに勇気を出して手話をしてもらえると嬉しいです。気軽に遊びに来てください」

▲世界共通の手話「I love you.(愛してるよ)」。ぜひ大切な人へ使ってみてください。

ロゴのデザインを考案した

## 大迫貴宏さん(写真右)に聞きました!



### デザインに込めた思い

「円は市を表し、色を市のカラーである青にしました。円の中にある文字は三原に住む人を表しており、カラフルにすることでさまざまな個性を表現しました。三原にはいろいろな人が住んでいるということを表したかったんです」

## 得意を力に

普段、市内の作業所「本町ごはん はらのすけ」で野菜づくりをしている大迫さん。週に2度は「ちゃんくす」で得意のパソコン技術を生かした作業をしています。今回のイベントのロゴのほか、ホームページの作成やチラシのデザイン、フェイスブックの更新なども担当しました。大迫さんは小学1年生の頃に進行性の筋ジストロフィー症と診断されました。徐々に筋力が衰えていく病気のため、「手先だけで作業ができるパソコンは将来的に仕事をしていくうえでも必要になると感じています」と話します。



▲「家族の存在が原動力です」と目を細める大迫さん。  
写真右は妻の恵さん・中央は息子の正幸くん



▲得意のパソコンの技術で専用ホームページやイベントチラシの作成、フェイスブックの更新、Tシャツのデザインなども行なっています



## イベントを通じて

### もっと自分たちのことを知ってもらいたい

障害のある人にはいろいろな人がおり、障害の種類もさまざまです。大迫さんは「このイベントを通じて、いろいろな障害があることをたくさんの人に知ってもらい、もっと身近に感じてもらいたい」と話します。

フクシカケルミハラは、参加者が特技を披露する場でもあります。「『アート』『ショップ』『カフェ』に参加するメンバーの一人ひとりが、自分たちが得意な事がかっこよく見せることができれば、そして障害のある人たちが輝くことのできる機会になれば」と期待を寄せます。

## 市内の作業所・福祉施設などが一体となって取り組む企画「フクシカケルミハラ」



障害者週間(12月3日～9日)にちなみ、三原では毎年啓発イベントを実施してきました。しかし「活動内容が広く市民の皆さんに周知できていないのではないか」という声が上がリ、これまでとはひと味違う企画を行おうということに

障害者週間啓発事業受託事業者  
有限会社わくわく  
代表取締役 **西上忠臣さん**

なりました。今年のテーマは「『楽しみながら』障害者福祉の事を知ってもらえる企画」です。障害のある人や企業、支援者、学校関係者が集まりさまざまな仕掛けを考え、準備してきました。これまで障害のある人たちが事業所や学校などで身に付けた技術を生かして生み出してきた作品・商品・メニューを、来場者の皆さんに楽しんでもらいたいです。